

# 令和6年度 外国人住民を対象とした聞き取り調査報告書

令和7年3月  
松本市

## 目次

1. 調査概要 .....	1
(1) 調査の目的 .....	1
(2) 調査の実施概要 .....	1
2. ヒアリング結果 .....	2
(1) タイグループ .....	2
(2) 中国グループ .....	4
(3) フィリピングループ .....	6
(4) 韓国グループ .....	8
(5) ブラジルグループ .....	10
(6) ネパールグループ .....	11
3. 結果の総括 .....	13
(1) ヒアリング結果から抽出された主な課題.....	13
(2) 多文化共生において必要な取組みの方向性.....	13

# 1. 調査概要

## (1)調査の目的

人口減少や社会状況が変化する中、本市における多文化共生のあり方を検討するにあたり、外国人住民の生活実態や困りごと等の課題について、アンケート調査では把握できない詳細な内容を聞き取り、生活支援施策等の具体的検討を行うために実施する。

## (2)調査の実施概要

①調査方法：グループヒアリング

②調査対象者：

松本市の住民基本台帳に登録のある外国人住民

③聞き取りテーマ：

外国籍住民の抱える主な課題を仮説として設定し、その課題を主に抱える層（国籍、年代、入国の背景等）を対象に主に以下のテーマについて聞き取りを行う。

	テーマ	仮説	対象者条件・想定
1	子育て・教育における課題	・必要な保育・教育や子育て支援を切れ目なく受けられていない ・子どもがケアラーとなりやすい	18歳未満の子どものいる親
2	コミュニティの高齢化による課題	・来日して30年程度経過し高齢期を迎える方々の生活不安、困りごとへの対応が必要	入管法改正時の90年代に入国してきた50～60代以上の方
3	生活サービスにおける課題（医療、ゴミ捨て、交通安全など）	・言語の問題や生活習慣の違いにより、住みにくさ、トラブルが生まれている ・必要なサービスが受けにくいシステムや仕組み上の問題がある	一人暮らしの方／家族のある方（家族構成で課題が異なることが想定されるため）
4	仕事における課題	・適切な労働条件や職場環境下で働いていない ・仕事を続けるうえで様々な困難や差別がある	特定技能、技能実習制度により入国している方

## ④実施日と対象者数

出身国	人数	実施日
タイ	2名	2024年12月17日
中国	4名	2024年12月21日
フィリピン	3名	2025年2月13日
韓国	3名	2025年2月21日
ブラジル	1名	2025年3月3日
ネパール	6名	2025年3月14日
合計	19名	

## 2.ヒアリング結果

実施したグループごとにヒアリング結果の要点を取りまとめる。

ヒアリングでは、対象者個人に関するだけでなく、わかる範囲で同じ国籍の方々の状況や生活課題、困りごとなどについても聞いている。取りまとめにあたっては、個人が特定されないよう、詳細な背景や事情は省略し、生活課題や困りごとなどの要点に絞って記載する。

### (1)タイグループ

実施日時	2024年12月17日(火) 13:00~15:00	
対象数	2名	
対象者プロフィール	Aさん ①50代女性 ②30年以上 ③仕事 ④夫と二人暮らし	Bさん ①40代女性 ②20~30年 ③母親を頼って ④夫と子どもあり

(プロフィールの内容：①年代・性別 ②在日年数 ③来日のキッカケ ④家族構成・子どもの有無)

#### 【ヒアリング結果の要点】

##### ① 日本語の学習やコミュニケーションにおける課題

- ・来日直後の若いころに日本語を学ぶ機会が少なく、仕事上でも特に必要がなかったため、日本語を十分習得しないまま時間が経ってしまった。そのため、今でも公的な書類や手紙など、専門用語の多いものは理解が難しく、多文化共生プラザにサポートしてもらっている。
- ・これまでコミュニケーションの面で日本人の夫を頼ってきた。夫が高齢となり入院や介護施設への入所などで頼れなくなり、さまざまな面で生活に支障を感じている。市や多文化共生プラザを頼りにしており、困ったらサポートを受けながら、夫の介護などの対応を行っている。
- ・病院や介護施設でのやりとりは難しい言葉もあるが、対応が親切なので特に問題は感じていない。

##### ② 仕事をするうえでの課題

- ・夫の年金や保険だけでは生活が厳しく、仕事はできるだけ長く続ける必要があるが、自分自身も高齢になってきて、健康にも自信がなくなり、いつまで現在の仕事ができるか不安がある。
- ・現在の仕事ができなくなった場合に新しい仕事が見つかるかという不安も感じている。仕事探しは主に友人の紹介が多く、ハローワークも利用しているがシステムがわかりにくいと感じる。
- ・最近は日本の介護施設で働くために日本語を学んで来る人が増えている。介護職では、日本語能力試験 N3 レベルが働ける基準とされている。

##### ③ 移動や買物に関する困りごと

- ・自動車を運転しないため、公共交通機関や自転車で移動する必要があるが、バスは複雑でどこに行くのかよくわからないことが多く、あまり使っていない。公共交通は言語が大きな壁になっており、言葉ができたとしても、外国人にとって利用が難しいと感じている。
- ・主に自転車を使うが、雨天など自転車が使えない時は徒歩で移動することになり、時々買物に困難を感じている。
- ・スマートフォンを使いこなせておらず、ネットスーパーは利用できない。

#### ④ 地域活動や PTA 活動における課題

- ・アパート住まいだと、住人同士はあいさつ程度であり、地域住民との付き合いは少ない。
- ・ごみ捨てなどのルールに従っており、特にトラブルや問題は感じていない。
- ・PTA 活動は子どものためにも参加したいと思っているが、学校から特に外国人向けに説明がなく、よくわからず参加に対して不安がある。また、そもそもの PTA の役割や活動内容にも疑問がある。

#### ⑤ 災害対応に対する不安

- ・地震などの災害時にどこに避難すれば良いかわからない人が多い。災害時の避難マップがあるが、活用されていない。

#### ⑥ 手続きや制度、サービス利用に関する課題

- ・結婚や子供の誕生に伴う手続きが難しいと感じる。予防接種などの案内はわかるが、その他のさまざまな子育て支援サービスはあまり利用しない。
- ・松本市に住民登録していても、学校からの連絡が来ないことがある。自分からアクションを起こさないと制度そのものに乗れない場合がある。
- ・幼稚園や保育園の手続きについても、期限が短く、情報が不足していると感じる。
- ・行政手続きにおいて、説明が足りないことがある。担当者によっても対応がまちまちであるため、混乱が生じる。
- ・来日間もない若い世代から相談を受けることが多く、特に各種手続きや生活に関するアドバイスが必要とされている。

#### ⑦ 情報収集手段やデジタルツールの利用に関する課題

- ・スマートフォンは主に電話や YouTube 閲覧に使っており、アプリの利用は少ない。LINE も操作に不安がある。
- ・情報提供の方法として、郵送物以外に LINE のような通知があると良い。ただし、松本市の公式 LINE は外国語対応されていないと思われ、利用できない。

#### ⑧ 多文化共生や差別などについて

- ・昔は外国人に対する差別が多かったが、現在は改善されており、外国人に対する偏見も少なくなっていると感じる。
- ・多文化交流イベントがあるが、参加する人は少ない。特に若い世代は自分の意思で参加を決める。
- ・市役所が情報提供の中心となるべきで、多文化共生プラザの存在をもっと知らしめる必要がある。

## (2)中国グループ

実施日時	2024年12月21日(土) 19:00~21:00	
対象数	4名	
対象者プロフィール	Aさん ①30代女性 ②10~20年 ③家族の移住 ④夫と子ども	Bさん ①50代女性 ②20~30年 ③留学 ④夫と子ども
	Cさん ①60代女性 ②30年以上 ③結婚 ④一人暮らし	Dさん ①60代女性 ②30年以上 ③留学 ④夫と二人暮らし

(プロフィールの内容：①年代・性別 ②在日年数 ③来日のキッカケ ④家族構成・子どもの有無)

### 【ヒアリング結果の要点】

#### ① 日本語の学習における課題

- ・多文化共生プラザでの外国人向けの日本語教室がレベルに合わない、同じ内容の繰り返しが多い。教室の選択肢が少なく、時間帯やレベルの多様性が不足している。
- ・松本市では日本語教室が少なく、ボランティアで運営されているが、日本語を教えるボランティアが減少している。ボランティアの募集や経費の支援が必要と思う。
- ・経済的な理由で日本語を学ぶ機会が限られている人がいる。経済的に余裕がないと、学習のための費用を出すことが難しい。

#### ② 学校教育や PTA 活動における課題

- ・日本語ができない外国人の親が、地域のイベントや PTA 活動に参加する際に困難を感じている。
- ・PTA とは何か、どのように参加するのかがわからない外国人の親が多い。PTA 活動に参加することで、日本人の親と仲良くなれたり、子どもへの対応が良くなると思うので参加したい気持ちはあるが、理解が難しい。
- ・学校の仕組みや PTA についての説明が不十分で、暗黙のルールが多い。特別なガイダンスやサポートが必要である。
- ・PTA のことに限らず、学校内に外国人向けの相談窓口があると良い。ただし、学校の先生が忙しいため、外部のサポートが必要。スクールカウンセラーや第三者が外国人の相談に対応する体制を整えてはどうか。外国人が多い地域では、月に1回の相談日を設けるなどの対応もよいのでは。
- ・優しい日本語や振り仮名を使った情報提供が必要。
- ・外国人の親は孤立しやすい。日本人の親は学校に外国人の子どもがいることを知らないことも多い。外国人の子どもや保護者がいることをもっと知ってほしい。そのための情報提供があるとよい。

#### ③ 仕事をするうえでの課題

- ・PTA や町会活動は女性の参加を前提としているが、働く女性にとっては負担が大きい。会社側の意識改革が必要で、男性の家事参加を推奨していくべきだ。
- ・ファミリーサポート事業があるが、料金が高く利用しにくい。
- ・外国人としての働きにくさを感じる場面が多い。外国人は周囲のサポートが少なく、特に女性はキ

キャリアを維持するのが難しいと感じる。

#### ④ 手続きや制度、サービス利用に関する課題

- ・ 中国人コミュニティの高齢化が進行している。日本に長く住む外国人が高齢化し、今後はより社会的なサポートが必要になるのではないか。
- ・ 留学生や外国人は年金制度のことをきちんと理解していない人が多いため、加入が遅れ、結果的に受給額が少なくなってしまう。年金受給額が少ないため、自分で貯蓄をする必要性を感じている。
- ・ もっと外国人に対して、日本の社会保障制度や地域活動の情報を提供する必要がある。

#### ⑤ 地域活動や近所付き合いにおける課題

- ・ 町内会の活動に参加しないと罰金が発生することがあるなど、外国人は地域活動のルールを理解しにくく、参加が難しいと感じる。特に仕事をしている人にとっては、朝の当番やゴミ当番などの活動が負担になる。
- ・ 日本では地域の清掃や花植えなどの地域活動があるが、働いていると参加は難しい。外国人にとっては文化の違いもあり、負担に感じることが多い。

#### ⑥ 情報収集における課題

- ・ 外国人が日本で生活する際に必要な情報や日本独特の習慣を学ぶ機会が少ないと感じる。また、市役所からの情報提供はとても重要だが、現状では不十分である。
- ・ 公共の場に外国語のパンフレットはあるが、普通の日常生活のなかからは情報を得にくい。そのため、結局友人からのアドバイスが頼りになることが多い。

#### ⑦ 多文化共生について

- ・ 多文化共生プラザの存在を知らない外国人が多く、学校でも情報提供がないため、もっとアピールする必要がある。
- ・ 小学校での多文化啓発活動がとても重要で効果的だと思うが、実際は小学校の授業で多文化的な教育の機会は少ない。学校などの身近な場で多文化交流できるとよい。
- ・ 例えば、中国の子どもが土足で教室に入ろうとした際に、優しく教えることが重要。子どもだけでなく大人でも、相手の文化や習慣を知らないことが偏見や差別の原因なので、互いに知る機会を増やせば、偏見は解消すると思う。
- ・ 日本人は優しいが、マイノリティとしての不安は常に存在している。中国人としてのプライドを持ちつつ、日本の文化に適應することの難しさを感じる。
- ・ 日本に来て日本語を学ぼうとしない外国人が多いのも問題で、日本語をもっと積極的に学ぶことが重要である。

#### ⑧ キーパーソン制度について

- ・ キーパーソンという言葉の定義が曖昧であり、活動を明確にする必要がある。「あなたはキーパーソンです」というだけでなく、活動内容を具体的に示してほしい。
- ・ キーパーソンをもっと活用してほしい。活動の例として、市役所での窓口対応や相談業務はどうか。
- ・ キーパーソンの存在を地域や外国人に知らしめることが重要であるが、現状では十分に活用されていない。キーパーソンの役割を活かし、多文化共生を推進してほしい。

### (3) フィリピングループ

実施日時	2025年2月13日(木) 13:00~14:30	
対象数	3名	
対象者プロフィール	Aさん ①70代女性 ②30年以上 ③結婚 ④一人暮らし	Bさん ①50代女性 ②30年以上 ③仕事 ④子どもと二人暮らし
	Cさん ①40代女性 ②20~30年以上 ③結婚 ④夫と子ども	

(プロフィールの内容：①年代・性別 ②在日年数 ③来日のキッカケ ④家族構成・子どもの有無)

#### 【ヒアリング結果の要点】

##### ① 日本語の学習における課題

- ・多文化共生プラザでの外国人向けの日本語教室がレベルに合わない、同じ内容の繰り返しが多い。
- ・教室の選択肢が少なく、時間帯やレベルの多様性が不足している。ブラッシュアップしたい人向けの公的な学習機会が少ない。
- ・フィリピンの友人たちに日本語学習を勧めたが、興味を持たない人も多い。日本語能力試験の資格を取ることで就職に有利になると説明しても、例えば介護の仕事では役立つが、工場ではそれほど日本語能力が求められないようだ。

##### ② 経済的な問題と将来的な不安

- ・夫に先立たれて一人暮らしをしているが、年金が少ないことに驚きと不満を感じている。長期間働いていたにも関わらず、十分な年金が得られないことに納得できない。
- ・現在、生活保護を受けているが、そのことに引け目を感じている。日本人は優しく、役場からのサポートにも感謝しているが、生活の中での孤独感や仕事ができないことへの悔しさを感じながら生活している。フィリピンに帰国することも考えているが、日本での生活を続けたいという思いもある。帰国しようにも、生活保護を受けているため、飛行機代が大きな負担となる。将来の不安に備え、少しずつ貯蓄を進めることが重要であると認識している。

##### ③ 仕事をするうえでの課題

- ・ALT(外国語指導助手)の仕事は授業がないときは給与が支払われないうえ、夏休みなどの期間は給与が出ないことが問題視されている。また、他のバイトや副業も禁止されており、十分な収入が得られないという問題がある。フィリピンから来ているALTは、現地では優秀な教師であるにもかかわらず、日本での待遇が悪く、生活が困難なため、複数人で一つの部屋に住むこともある。
- ・就労ビザの制約により、簡単に転職ができない。

##### ④ 地域活動や近所付き合いにおける課題

- ・アパートに住んでいる場合、地域との関わりが少なくなりがちである。アパートでもゴミのルールが厳しい場合があり、活動に参加しないと月に1000円程度の費用がかかることもあって驚いた。

- ・子どもが小さい頃は自治会活動に参加することが多いが、高校生になると参加の機会が減ってしまい地域との接点がなくなってしまう。
- ・フィリピン出身者は教会に参加する人が多いため、教会が出身者同士の交流やサポートの場になっている。

#### ⑤ 移動に関する課題

- ・外国人に限らないが、駅の階段が高齢者や障害者にとって大きな障害となっている。エレベーターの設置を進めてほしい。
- ・また、公共交通機関の本数が少なく、移動が困難な人もいる。

#### ⑥ 情報収集における課題

- ・日本語の難しい表現を減らし、英語や優しい日本語をさまざまな場面で増やすべきである。
- ・行政文書や学校からの通知をもっとシンプルにして、多言語にする対応も進めてほしい。
- ・学校ではやさしい日本語がまだ導入されていない。やさしい日本語や多言語対応を広く進めることで、真の多文化共生が実現すると考える。

#### ⑦ 多文化共生について

- ・多文化共生プラザの存在は知られているが、具体的なサービス内容がよくわからないため、利用していない人が多い。困った時には知り合いや学校を頼ることが多い。もっと多文化共生プラザや支援サービスに関する情報発信を強化してほしい。
- ・日本の学校行事（入学式、卒業式）における服装や慣習の違いが外国人にとっての障壁と感じる。外国人は日本の文化を理解しようと努力しているが、日本人側も外国人の文化に対する理解が必要だと思う。

## (4)韓国グループ

実施日時	2025年2月21日(金) 15:00~16:00	
対象数	3名	
対象者プロフィール	Aさん ①40代女性 ②10~20年 ③仕事 ④夫と子ども	Bさん ①50代女性 ②20~30年 ③語学研修 ④夫と子ども
	Cさん ①60代女性 ②30年以上 ③結婚 ④夫と子ども	

(プロフィールの内容：①年代・性別 ②在日年数 ③来日のキッカケ ④家族構成・子どもの有無)

### 【ヒアリング結果の要点】

#### ① 日本語コミュニケーションにおける課題

- ・ 仕事上の専門用語に壁を感じているが、そのことに対する職場で特別なケアはない。日本語ができるようになって、特にフォーマルな場面での敬語が難しく、勉強がまだ必要だと感じている。
- ・ 金融機関が開催している異業種交流会で名刺交換をした際に、外国人従業員に対する言語サポートを提供する会社があることを知った。介護労働者向けのサポートや、社内でのコミュニケーションを支援するサービスもあるそうだ。以前はそのようなサポートを聞いたことがなかったため、変化を感じる。

#### ② 学校教育に関する疑問

- ・ 日本の学校では、小学生が時計をつけてはいけないとか、水筒を持ってくる期間が決まっているなどの規則があるが、なぜ禁止されているのか理解できない。
- ・ その他にもさまざまな点で日本の学校教育は柔軟性にかけていると感じる。例えば、衣替えは6月1日と決まっており、気候変動により今は5月から暑くなっているのに、ルールを変えようとならないのは理解できない。
- ・ 日本の教育の良いところは、勉強と部活動の両立を進めるところ。部活動は、体力や精神力を鍛える良い機会である。韓国のように勉強に偏らない点がいいと思う。ただし、勝敗にこだわりすぎる風潮や、親同士の間関係があるなど、理解できないことも多い。
- ・ 現在、部活動の地域移行が進められているが、より親の負担が増え、仕事と両立が難しくなるため、部活動自体をなくす学校も出てきているのが残念である。
- ・ 子どもには、韓国人としてのアイデンティティを持つことの重要性を教えているが、子ども自身はもっとナチュラルに社会に溶け込んでおり、親が日本社会に対して感じる違和感を強く主張するのを嫌がる傾向がある。

#### ③ PTA 活動における課題

- ・ PTA 活動という日本独自の制度や、親が子どもをサポートする仕組みは、家庭の事情で参加できない親にとっては、無言のプレッシャーとなっている。
- ・ また、親が熱心にサポートする姿勢は、子どもたちに過度な期待を感じさせることもあるのではな

いか。

- ・PTA の活動内容や役割が明確でないため、外国人には理解しづらい。マニュアルがなく、日本人の保護者が教えてくれることもないため、参加に対して不安を感じている。
- ・外国人の役員免除をなくし、全員が役割を担うことにした学校もある。差別の解消という意味でよいが、なかには外国人に教える手間を避けるために最初から意図的に参加させないケースもある。

#### ④ 多文化共生や差別について

- ・日本社会の韓国に対する意識は韓国の俳優やアイドルなどの印象から、変わってきていると感じる。子どもは韓国ルーツであることをきっかけに、友人関係が広がっている。
- ・ただ、一定数の人はまだ偏見を持っている。韓国人特有の日本語の発音をからかわれたり、外国人だとわかるとため口で話されるなど、外国人への差別的な言動はまだみられる。
- ・韓国人が日本で使う氏名について、顧客や取引先から「通名に変更すべき」と指摘されたことがある。子どもも学校で使うユニフォームにどう名前を記載するかでもめたことがある。英語で書いてもいいようなものを認めないなど、理解できないことがある。
- ・キーパーソン制度や多文化交流行事を通じ、日本人と外国人住民の交流がもっと活発になるとよいと願っている。

#### ⑤ 交通アクセスについて

- ・松本市はせっかく空港があるが、韓国への直行便がなく、飛行機移動の利便性がとても低い。
- ・韓国とのアクセスにかかる時間とコストが障壁と感じる。

## (5) ブラジルグループ

実施日時	2025年2月21日(金) 15:00~16:00
対象数	1名
対象者プロフィール	Aさん ①40代女性 ②10~20年 ③母親と移住 ④夫と子ども

(プロフィールの内容：①年代・性別 ②在日年数 ③来日のキッカケ ④家族構成・子どもの有無)

### 【ヒアリング結果の要点】

#### ① コミュニケーションにおける課題

- ・ 日常会話程度の日本語力があっても、特に PTA 活動をするときや役所の手続きで言葉の壁と困難を感じている。
- ・ 学校 PTA 役員を務めることになったが、学校側や PTA 組織からのサポートが一切ないため、日本語でのコミュニケーションに不安がある。

#### ② 仕事の状況

- ・ 農業に興味があり、現在は農家でアルバイトとして農業を学んでいるが、将来的には自分で農業をやりたいと思っている。農業は時間の融通がある程度聞くので、子どもを育てながら働きやすい。外国人でも農地を借りられるのであれば、やってみたい。

#### ③ 学校教育における課題

- ・ 子どもに言語の遅れなど発達上の心配があり病院に通っているが、学校からのサポートもあるとよい。勉強についても遅れを感じているので、サポートをもっとしてほしい。特に外国人の生徒に対するサポートが不足していると感じている。

#### ④ 地域活動やご近所付き合いにおける課題

- ・ 地域の方とは、挨拶程度の交流はあるが、深い関わりはない。自治会活動には外国人として参加しづらさを感じている。ただし、ゴミ捨てやご近所づきあいでのトラブルは経験したことはない。
- ・ 外国人の母親同士でサポートし合うことがあるが、ブラジル人コミュニティのような横のつながりはあまりない。ブラジル人は誕生日会などのパーティを催すことが大好きなので、集まることがあればうれしいが、自分が率先してイベントを企画するところまではできていない。

#### ⑤ 多文化共生や差別について

- ・ 松本市で外国人として生活する中で、多文化共生プラザや市役所のサポートがとても重要だと感じている。多文化共生プラザのスタッフが頼りの存在である。
- ・ 外国人としてのアイデンティティに関する問題があり、特に子供が学校で外国人として扱われることへの不安が語られた。
- ・ 市役所や裁判所で外国人差別を感じることもある。特に書類の手続きで言葉がよく理解できないことから、差別的な対応を受けた経験がある。

## (6)ネパールグループ

実施日時	2025年3月14日(金) 14:00~15:00
対象数	6名
対象者プロフィール	20~30代の男女

※ネパールグループについては、複数人が集まりカジュアルな雰囲気での談話する方式で実施したため、一人ひとりのプロフィールまでは把握していない

### 【ヒアリング結果の要点】

#### ① 来日するネパール人が増えている背景

- ・就職や専門学校に入学するために来日するネパール人が増加している。仕事はホテルなどでの募集が増えている。
- ・母国での収入では家族を支えるのが難しいため、より良い収入を求めて日本で働くことを選択している人が多い。また、日本の技術を学び、将来的にはネパールに戻って日本での経験をキャリアアップにつなげたいと考える若者もいる。

#### ② 情報収集や手続きにおける課題

- ・日本語が十分に使えないため、市役所や各種窓口での手続きが大きな問題と感じている。提供される資料、年金、税金、警察、病院、ハローワークなどの案内が、外国人には十分に伝わっていない。
- ・外国人住民向けの資料の一斉送付や専用情報発信システムがあるとよいのではないか。また、多言語を話せる通訳が市役所の窓口にいると助かる。
- ・市役所での住民登録をした後、どこで何をすればいいかが分からない。その場で多文化共生プラザのことも資料を渡すだけでなく、詳しくサービスなどについて説明してほしい。多文化共生プラザの存在やサービスを知らないネパール人はまだ多い。何ができて、どんなメリットがあるのか、わかりやすく伝えてほしい。
- ・学生の場合は、専門学校など学校に相談に乗ってもらえることができるが、学校以外の相談先もあれば利用したい。
- ・インターネットやSNSを活用して、情報を広めることが重要。

#### ③ 仕事をするうえでの課題

- ・職場では、漢字が読めないことを理由に差別を受けたことがある。
- ・日本に来たばかりの人々に仕事を紹介する窓口が欲しい。ハローワークはその一つだと思うが、ネパール人には十分に伝わっていない。ハローワークと多文化共生プラザなどと連携して、就職支援や情報発信をしてけると助かる。
- ・松本で農業をしてみたいという興味があるが、具体的な方法を知りたい。

#### ④ 学校教育における課題

- ・子供が学校での学習に困難を感じている場合、どのようにサポートを受けられるかよくわからない。
- ・日本の学校でも英語の授業はあるが、卒業しても話せるようにならないことが多い。英語教育のカリキュラムが改善されるべき。どうせなら子どもに日本語、ネパール語、英語を話せるようになってほしい。

#### ⑤ ネパール人コミュニティの状況

- ・ Facebook などのソーシャルメディア上でネパール人コミュニティをつくり、情報共有が行われている。
- ・ 今後はもっと、ネパールの文化を紹介するようなイベントや祭り、料理教室、ダンス、バーベキューなどの交流イベントをやりたい。そこにはぜひ日本人にも来てもらいたい。その際、どうしても大きな場所が必要になるので、公民館を使えるのかなど教えてほしい。

### 3. 結果の総括

#### (1) ヒアリング結果から抽出された主な課題

ヒアリング結果から以下に主な課題をまとめる。

	課題
① 日本語・コミュニケーションの障壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公的な日本語教育の機会不足（レベルや時間帯の選択肢が少ない）</li> <li>● フォーマルな日本語や行政用語が難解</li> <li>● 日本語教室のボランティアの減少</li> </ul>
② 学校制度や PTA 活動への参加の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PTA 制度の理解不足・説明不足</li> <li>● 暗黙のルールや慣習が外国人にとっての障壁になる</li> <li>● 学校内に外国人向け相談体制が不足</li> </ul>
③ 就労上の不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職場内差別や言語によるハンディキャップ</li> <li>● 特定技能・ビザ制約で転職が難しいこと</li> <li>● ALT 制度の報酬や副業禁止問題</li> <li>● ハローワークとの連携</li> </ul>
④ 生活支援・行政手続きの困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ごみ出し・交通・病院などの生活知識が不十分</li> <li>● 各種行政手続きや制度の難解さと担当者の対応のばらつき</li> </ul>
⑤ 地域・コミュニティ参加のしづらさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 集合住宅での孤立傾向</li> <li>● 町会・清掃などの地域活動に参加しづらい</li> <li>● おまつりなど地域行事に参加しづらい</li> </ul>
⑥ 差別や偏見	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本語能力や発音に対するからかい、軽視といった態度</li> <li>● 通名の強要</li> </ul>
⑦ 多文化共生の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多文化共生プラザの情報が届いていない</li> <li>● キーパーソン制度が十分活用されていない</li> </ul>

#### (2) 多文化共生において必要な取組みの方向性

上記課題から、今後の多文化共生推進において、検討されるべき取組の方向性を以下に示す。

<p><b>A. 日本語支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レベル・目的別の日本語教室の整備</li> <li>● オンライン・夜間・通訳付きクラスの拡充</li> <li>● 日本語教育のボランティア育成支援</li> </ul> <p><b>B. 行政情報と制度案内</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 多言語・やさしい日本語による情報提供の強化</li> <li>● LINE など SNS を活用した情報発信</li> <li>● 外国人向け「生活ガイドブック」の配布・動画化</li> <li>● 市役所窓口への外国語対応職員や通訳の配置</li> </ul> <p><b>C. 教育・子育て支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● PTA・学校制度の仕組み説明会（多言語＋やさしい日本語）</li> <li>● 外国人保護者向けのスクールサポート体制の整備（外部相談員の配置など）</li> <li>● 外国籍児童への学習・発達支援の体制強化</li> </ul>
--

#### D. 就労支援・キャリア相談

- 多文化共生プラザ×ハローワーク連携による就職支援
- ALT や技能実習生等への労働環境改善策の検討

#### E. 高齢化への対応

- 外国人高齢者への年金・医療・介護制度に関する周知・サポート
- 孤立防止に向けた働きかけ

#### F. 地域との橋渡し

- 町会や地域活動に参加しやすい開かれた地域の仕組みづくり
- 公民館・学校などを活用した交流イベント支援
- 料理教室、文化祭などの多文化イベント実施支援

#### G. 差別解消と多文化理解

- 小中学校での多文化理解に関する授業の実施・交流の促進
- 公的機関の職員向け差別防止・言語対応研修
- 通名・民族名への配慮や学校での表示ルール整備 など